

江森 享子

Emori Kyoko



日本語教室で教える
江森さん



江森 享子さん(西原)

倉敷市出身。元中学校教諭(音楽、英語)。まにわ日本語サークル事務局。環境、農業、政治などについて語る『消費者カフェ』、民族音楽と料理を楽しむ『民族音楽と料理の会』主宰。IDEA COFFEE店主。声楽、旅行、俳句など多趣味で、現在は句集を出すことやバイオリンをうまく弾けるようになることなど目標に向かって研鑽中。

真

MANIWA BITO

庭人

日本語教室のボランティアとして活動

江森享子さんは、海外出身の人に日本語を教えるボランティアグループ『まにわ日本語サークル』の事務局です。ボランティアを始めたきっかけは、海外から来た人に日本語を教える『日本語教育』という分野を知ったことでした。最初は津山市の日本語教室で活動していましたが、そこに真庭市から通っている人がいたことから、「真庭市内でできれば」と会場を探していたとのこと。各方面に相談したところ、久世公民館で活動していた日本語教室とつながります。「ちょうどその頃、それまでされていた方がやめようと言われていたので、引き継ぐ形で2018年に始めました」と振り返ります。

その後、活動が口コミで徐々に広がり、現在はベトナムやパキスタンなどの出身者、約30人が学習中。スタツフも20人近くになりました。「教室以外の面でお手伝いすることもあり、大変なこともあります。でも、困ったときはお互いさまです。それに、学習者の皆さんから学ぶことも多いので、楽しさもありません」とやりがいを感じている様子です。一方で、課題はスタツフ不足。「学習者は増えていますが、スタツフは足りていません。ボランティアアスタツフ募集中です」と呼びかけます。

ほっと息つける場所を

江森さんは昨年7月、自宅を改装してカフェを

オープンしました。その空間は自分のリフレッシュの場として作ったとのこと。週2日だけの営業ですが、この場所には江森さんのある目標があります。「俳句を始めてまだ1年半ですが、いつか句会をここで開きたいです」と話します。他にも、達成したい目標がたくさんある江森さん。その一つ一つに楽しみながら取り組む姿が印象的でした。

